

2017年度 発達保障学校

~~~~~  
***SYLLABUS***  
~~~~~

(講義計画)

人間発達研究所

コース名 「入門の入門」コース	2017年度回数 全3日5回	担当者 坂本彩・高田智行・武居誠
授業の内容 <p>このコースは、社会人3年目くらいまでの「若手職員」が対象です。講義とグループワークを織り交ぜながら学びを深めます。</p> <p>「わからない」と言える場所です。「わからない」を共有し合って、お互いの学びを深めましょう。</p> <p>「悩みを出し合い」→「座学で学び」→「学びを共有して明日からの実践につなげる」プログラム構成です。目の前で起こっている問題や悩みを発達的に読み解くとどうなるのか、その力をつけるための入り口に立てることをめざします。若手職員が目の前のことでいっぱいになっている、でも、そのこと自体に大切な意味があることを伝える、文字通り「入門の入門」コースです。</p>		
開講計画 <p>第1回 7月2日 9:30～16:30</p> <p>オリエンテーション 講師自己紹介&参加者自己紹介 講義①「発達を学んで？」 グループワーク「わからないこと」「印象に残ったところ」のわかちあい。 講義②「発達の理解を実践に生かすって？」 宿題「次回までにこんなことをしてみよう！」</p> <p>第2回 9月2日 9:30～12:30</p> <p>グループワーク 宿題「これをやってみよう！」をやってみてどうだったか「わかちあい」 実践報告 ミニ講義「私たちの仕事と、社会のしくみ」（タイムリーなニュースなどを取り上げて） グループワーク「わからないこと」「印象に残ったところ」のわかちあい。 希望者個別相談，ランチタイム 終了後，希望者の方は，一緒にランチをしながら，おしゃべりをしましょう。個別の相談もOK。</p> <p>第3回 12月3日 9:30～16:30</p> <p>第1回～2回の皆さんの声，希望を聞いて，思いにそくした内容のグループワークと講義をします。</p> <p>明日からの力になるような，「まとめ」ができるような内容を考えています。</p> <p>昨年は，「保育実践の報告」「発達に関する講義」「相模原の事件について」等を行いました。</p>		

コース名 「個人の発達の系」概論コース	2017年度回数 全10日12回	担当者 中村 隆一
<p>授業の内容</p> <p>【発達理解と歴史理解を得る】</p> <p>人間の発達を考える際の基本点は、発達の「これまで」を未来につなぐことにあり、その結節点が、発達の「今」である、ということになります。そして、「今」の姿の背景には、さまざまな歴史があり、この「個人の発達の系」概論コースでは、まず「個人の発達の系」に、さまざまな歴史のひかりもあてながら、発達について立体的に考えてみたいと思います。</p> <p>その一つは、生命が出現し人類の祖先が登場してきた進化という歴史です。また、人間が「発達」という現象に気づき、それを研究の対象にしてきたという人類の歴史にもふれます。あわせて、心理学の優生学・優生政策への関与の歴史やその過ちの克服の努力の歴史についても発達研究の歴史という形でふれます。</p> <p>【発達のすじ道を知る】</p> <p>人間の発達を支える体系としての発達保障論は、「ひとりの発達が万人の発達になるような」社会の実現とともに、ひとりひとりの発達を具体的に支える方法や技術を必要とします。そうした方法や技術の検討・再構成は、もっぱら支援者固有の専門性ですが、その場合に発達をとらえて内発的な根拠が把握されていることは、重要な意味があります。「啐啄（そつたく）」ということばがあります。雛（ひな）が卵からかえる時、卵の中にいる雛がからを中からつつく（その音が啐）ことと、親鳥が殻を食い破る（啄）とが一致して、雛鳥が殻から出てくることができるといいます。卵の殻の中の様子をつかんで支援する、これが発達のすじ道を知ることの重要な中身になります。</p> <p>具体的には、受精から9、10歳頃までの時期を述べようとしています。</p> <p>【発達認識の理論的理解と勘所（かんどころ）を学ぶ】</p> <p>同時に、支援者の日々の取り組みの中で、支援の方法や技術が深まるためには、その材料となるさまざまな記録がとても重要になります。その記録をつけるとは、行動や姿を「ことば」にすることですが、その「ことば」がゆたかになっていることが必要です。実際には、変化しようとしている姿であるのに、逆戻りの姿であったり静止した姿としか記録できないとすると、それは支援の方法や技術を検討する材料にはなりにくいのです（発達の理論的理解を得る）。</p> <p>さらに、支援は、人間同士のかかわり・やりとりの中で進んでいきます。ところが、私たちは、話し言葉でのやりとりになれきっているために、話し言葉が無い状態の人たちとのやりとりに戸惑いを感じることにありますが、そうした戸惑いにもできるだけ適切な対案を示したいと思っています（発達の時期ごとのやりとりのツボを知る）。</p> <p>以上3つの課題に迫ろうというのが、「個人の発達の系」概論コースです。</p> <p>具体的計画</p> <p>まず、冒頭の3～4回目までは、進化や人間の発達認識の深まりなど、歴史的な経過と発達研究における理論的なことがらを学びます。やや理屈っぽい内容ですが、可能な限りいろいろな教材をつかって、初心者の方にも興味を持っていただけるようにすすめます。</p> <p>後半は、受精から胎生期、乳児期前半、乳児期後半、幼児期と10歳頃までの発達のすじ道をたどります。ここでは、発達の各時期の特徴、それを裏付ける具体的な知見、を軸に述べます。特に、他者との関係のありようややりとりについて時間をかけたいと思います。</p> <p>すすめ方</p> <p>教材は、当日に配布する資料、スライド、VTR などです。スライドのHandoutなどは、</p>		

人間発達研究所のホームページの発達保障学校のコーナーにリンクがありますので講義前にダウンロードしていただくことも可能です。

インフォメーション

《質問について》

講義形式のコースですが、質問大歓迎です。メールでのご質問は下記専用メールアドレスにどうぞ（携帯電話のメールはうまく送受信ができない場合がありますのでご注意ください）。

質問用のメールアドレス r-nakamura@j-ihd.com

《資料など》

講義では用意したスライドをもとに進めますがHandoutは印刷していません。このHandoutやレジュメ、講義の映像、音声はインターネットのサイトにアップロードしますのでご利用ください。下記アドレスから直接閲覧できます（要パスワード）。

<http://firestorage.jp/groups/c9dc9bdd6d3dd40fd9725aab69eaab2c13011e7b>

なお録画は、一旦ダウンロードをした上で再生が可能です。ご注意ください。

参考図書

田中昌人・田中杉恵・有田知行『子どもの発達と診断1～5』（大月書店）

中村隆一『発達の旅 人生最初の10年 旅支度編』（クリエイツかもがわ 2013）希望者は割引価格（定価1700円が1200円）で購入できます。

<p>コース名 発達保障実践論コース</p>	<p>2017年度回数 全10回</p>	<p>担当者 西島悟司・田村和宏</p>
<p>授業の内容</p> <p>教育や保育，高齢者や障害者を支える職場など，私たちの職場は，より困難さを増してきています。その背景には，今日の社会が「生活しにくい」ものになっているという事情もあるでしょう。こうしたときに，私たちがよりよい実践をすすめていく実践者であるためには，どのような力量が求められるのでしょうか。</p> <p>今年度は，田村と西島のふたりでこのコースを担当することになりました。</p> <p>このコースは，これまで若手の実践者であったり，ベテランの管理者であったり，教員であったり，保育士であったり支援員であったりと多様な参加者で構成されることが続いてきています。それぞれこのコースに期待するところも異なりますから，最小公倍数的な内容を設定してきたところもあります。今年度は，実践と関わって学びたい要求をベースにコースを組み立てていきたいと考えています。したがって場合によっては，経験年数によるグループ分けしてすすめるとか，あるいは要求によるテーマ別グループですすめるというような小集団学習ですすめることもあります。とにかく柔軟にみなさんの今実践現場で怒っている課題や問題や関心などに応えていけるようにしていきたいと考えています。</p> <p>講義形式というものではなく，ゼミナール形式で，しかも小集団でのゼミという形も含めたみなさんといっしょに意見交換や議論をし深めていく時間にしていきたいと思っています。</p> <p>みなさんといっしょに作っていくコースになります。聞いているだけより，意見を出し合って元気をつくる，そんな時間としていきたいと思っています。</p>		
<p>授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）</p> <p>第1回 6月 3日（土） pm 第2回 7月 1日（土） pm 第3回 7月22日（土） pm 第4回 8月26日（土） pm 第5回 9月23日（土） pm 第6回 10月14日（土） pm 第7回 11月 4日（土） pm 第8回 12月 2日（土） pm 第9回 1月20日（土） pm 第10回 2月24日（土） pm</p>		

<p>コース名 発達基礎理論研究コース</p>	<p>2017 年度 全11回</p>	<p>担当者 荒木 穂積</p>
<p>講義内容・テーマ</p> <p>本コースは、2年で1サイクルとなるように構成されています。2年間をかけて最近の乳幼児期の発達研究と田中昌人らによって提起されてきた「可逆操作の高次化における『階層－段階』」（『階層－段階』理論と略称する）の学習をすすめます。今年度は、乳児期前半の階層（誕生から6・7か月）の学習をすすめます。必要に応じて乳児期後半の階層や幼児期の階層も取り上げます。</p> <p>前半では、現代の人間の乳幼児期の発達研究も取り上げて学習をすすめていきます。今年度は、テキスト外山紀子・中島伸子『乳幼児は世界をどう理解しているか——実験で読みとく赤ちゃんの心——』（新曜社、2013）を学習します。</p> <p>後半の前期では田中昌人の「可逆操作の高次化における『階層－段階』」理論（『階層－段階』理論と略称）に焦点をあてて学習をすすめてゆきます。テキスト『人間発達の科学』（青木書店）、『人間発達の理論』（青木書店）を学習します。</p> <p>後半の後期では田中昌人・杉恵らの『子どもの発達と診断：乳児期前半』（大月書店）および『乳児の発達診断入門』（大月書店）を学習します。</p> <p>本コースでは、エキストラとして夏期および冬期に自主学習および集中講義を計画しています。人間の乳幼児期の発達研究に大きな影響をあたえたと思われる研究者を取り上げ、直接その人の書いた著作を学習します（夏期）。また、その研究者の研究成果を集中講義で学びます（冬期）。今年度は、フランスの心理学者アンリー・ワロンを取り上げます。</p> <p>個人の発達の系概論コースを修了した人、若手大学院生、発達相談、保育・教育、福祉、医療などの分野で実践している人、『階層－段階』理論の実践と応用に興味をもっている人、『階層－段階』理論を再学習したい人等の参加を期待しています。</p>		
<p>授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）</p> <p>第1回目：オリエンテーションおよび『階層－段階』理論』の概要（解説）</p> <p>(1)可逆操作の高次化における『階層－段階』理論がどのような構築されてきたか（テキスト1）</p> <p>第2-4回目：『乳幼児は世界をどう理解しているか——実験で読みとく赤ちゃんの心——』を学ぶ</p> <p>(1)『乳幼児は世界をどう理解しているか』の発達研究（その1）（テキスト2）</p> <p>(2)『乳幼児は世界をどう理解しているか』の発達研究（その2）（テキスト2）</p> <p>(3)『乳幼児は世界をどう理解しているか』の発達研究（その3）（テキスト2）</p> <p>第5-7回目：『階層－段階』理論を学ぶ</p> <p>(1) 発達における階層概念の導入について（テキスト3, 第Ⅱ部第1章）</p> <p>(2) 発達の原動力をめぐる論争について（テキスト3, 第Ⅱ部第2章）</p> <p>(3) 発達における対称性原理について（テキスト4, 第4章）</p> <p>第8-10回目：乳児期前半（回転可逆操作期）の階層：誕生から6・7か月</p> <p>(1) 3つの発達の質的転換期（テキスト5,6）</p> <p>(2) 生後第1の新しい力の誕生（テキスト5, 6）</p> <p>(3) 階層間の移行と飛躍（テキスト5, 6）</p> <p>第11回目：乳児期前半の発達の階層振り返り（回転可逆操作期の階層）：誕生～6・7か月頃</p>		

テキスト

- (1) 田中昌人『発達研究の志』あいゆびい（発行）、萌文社（発売）、1996.
- (2) 外山紀子・中島伸子『乳幼児は世界をどう理解しているか——実験で読みとく赤ちゃんの心——』（新曜社、2013）
- (3) 田中昌人『人間発達の科学』（青木書店）
- (4) 田中昌人『人間発達の理論』（青木書店）
- (5) 田中昌人・田中杉恵・有田知行『子どもの発達と診断』乳児期前半（1巻）、大月書店
- (6) 田中昌人『乳児の発達診断入門』,大月書店

参考書・ビデオなど

- (1) 田中昌人・田中杉恵『発達診断の実際』（1～8巻）DVD版、大月書店
- (2) 田中昌人・田中杉恵『あそびの中にもみる子どもたち』（1～6巻）DVD版、大月書店
- (3) 田中昌人・田中杉恵・有田知行『子どもの発達と診断』乳児期前半（1巻）、大月書店
- (4) 田中昌人・田中杉恵・有田知行『子どもの発達と診断』乳児期後半（2巻）、大月書店
- (5) 田中昌人・田中杉恵・有田知行『子どもの発達と診断』幼児期Ⅰ（3巻）、大月書店
- (6) 田中昌人・田中杉恵・有田知行『子どもの発達と診断』幼児期Ⅱ（4巻）、大月書店
- (7) 京都大学教育学部第二期生有志『あの頃の若き旅立ち—教育・研究・生活—』（クリエイツかもがわ、2006）
- (8) 田中昌人先生を偲ぶ教え子のつどい実行委員会『土割の刻——田中昌人の研究を引き継ぐ——』（クリエイツかもがわ、2007）
- (9) フロン・浜田寿美男訳編『身体・自我・社会』（ミネルバ書房、1983）

その他

本コースは、レジュメによる発表など参加型学習形式でおこないます。DVDや映画など視聴覚教材を用いた学習も取り入れていきます。ゼミナールの中でテキストの他に関連文献や資料を適宜紹介・配布する予定です。

<p>コース名 発達診断方法論コース</p>	<p>2017 年度回数 全6回</p>	<p>担当者 中村 隆一</p>
<p>授業の概要</p> <p>方法論コースでは、実際に発達診断に従事しようとする（あるいは、現にしている）人々を対象にしています。受講にあたって、発達保障学校個人の発達の系概論コース、基礎理論コースなどを受講しておられると内容が分かりやすいと思います。</p> <p>主として発達の階層－段階理論に拠りつつ「発達認識の方法論」（実際の診断手技という意味での「方法」とはちがいます）という観点から、次のような柱を想定し、その中でいくつかを選択して学びます。</p> <p>発達診断の主な目的はいうまでもなく一人ひとりの発達の状態の理解にあります。それを実証的にすすめることは、ますます重要になっています。そのためには、日々進歩している研究上の新しい知見を反映していると同時に、具体的な手続きにおける妥当性も欠かせません。同時に、発達診断は、発達臨床としての側面を持っていますから、その手続きや方法も個別性において妥当性が問われます。いいかえると、発達の姿をそのひとを援助するために、どのように把握し提示しうるのかが問われています。</p> <p>現実の発達診断では、仮説を設定し、その検証手続きを吟味し、その結果を評価し、発達の状態について総合的な評価をおこなう、ということになります。この一連の過程について方法論という面から深めます。</p> <p>おおまかには下記のような内容を想定していますが、受講者にあわせて毎年異なっていますので目安としてご理解ください。</p>		
<p>授業の流れの一例（スケジュール・内容等の計画）</p> <p>第1回：発達の階層－段階理論と発達診断</p> <p>ここでは、発達の階層－段階理論が着想され発展してきた経過も念頭において、</p> <p>①発達検査・知能検査の意味と限界点（1905年にビネーの開発した知的水準の診断法1の論文、ビネー「新しい児童観」1911 など）</p> <p>②③発達の階層－段階理論の概要（主として「静かな法則性」と言われるレベルまで）。</p> <p>第2回：発達診断における仮説と検証</p> <p>①生育歴、主訴から発達診断における仮説に</p> <p>②知能検査・発達検査下位項目以外の着目点の例示</p> <p>③発達相談結果記録</p> <p>第3以降：次元可逆操作の各時期の発達診断下位項目</p> <p>1 次元可逆操作・2次元形成期</p> <p>2 次元可逆操作・3次元形成期</p> <p>3 次元可逆操作</p> <p>1 次変換可逆操作</p>		
<p>質問用のメールアドレス r-nakamura@j-ihd.com</p> <p>テキスト 中村隆一『発達の旅 人生最初の10年 旅支度編』（クリエイツかもがわ2013-2）</p> <p>参考図書 『子どもの発達と診断1～5』（大月書店）</p>		

コース名 研究科	2017年10月～ 2019年10月	担当者 渡部昭男・田村和宏
<p>授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）</p> <p>発達保障学校のコースを1コース以上受講した方が対象です。研究論文を書き上げ、『人間発達研究所紀要』に投稿することをめざします。メールと面談（スクーリング、2年で6回程度）で研究の計画策定と推進を支援します。</p> <p>2年の流れは、以下の通りです。</p> <p>開校式 指導教員（正・副）の委嘱、2年間のスケジュールの内定</p> <p>計画発表会（6か月目）</p> <p>中間発表会（12か月目）</p> <p>予備論文発表会（18か月目）</p> <p>査読者とのやり取りと完成論文の提出（22か月目）</p> <p>査読・修了（24か月目）となります。</p> <p>指導教員はできるだけご希望に添いたいと思いますが、諸般の事情により、こちらで決定させていただくこともあります。研究科の申し込み締め切りは9月末です。</p>		

<集中講義> 子どもが見えてくる実践の記録	2017年度回数 全3日5回	担当者 松島明日香・竹澤清
--------------------------	-------------------	------------------

「書くこと」で、子ども理解を深める——子どもが見えてくる記録の書き方——

ここでの願い

書くことはめんどろ、でも、書けばいいことがある。

伝わる文章・思いを表す文章にはコツがある。

—実例で検討し、そして『書くこと』で実践主体になっていく、そんなことが実感できる機会になっていたら、と考えています。

事実で伝える

私は実践記録を書くとき、ひとまずは「場面記録」を書くことを勧めます。子ども発見ともいうべき、印象に残った場面を記すのです。ともすると、「子どもが主体的になった」などと、言葉だけで言ってしまうがちです。そんなとき「事実で語る」ことで人に伝わります。「事実があればジメージがわく、イメージがわけば人に伝わる」と言っていていいでしょうか。私は放課後サービスの事例検討会（月1回）に参加しています。以前こんなことを書きました。

人間を“深く”学ぶ—見通しとは楽しみのこと 竹沢清

自閉症児健作は、学校から放課後サービスの事業所にやってくるなり、ホワイトボードの字を消そうとする。そして帰りの時間近くになるとパニックを起こし、暴れる。

ふと、（家で何かあるのか）と、根拠のない推測をしたりもする。

だが、そのとき、指導員の高橋さんがいう。「先日、帰り、いつもと反対のルートで、子どもたちを（車で）家に送り届けたら、健作がニコニコしていた」

（そうか、健作の家はいつも最後。彼は、すぐにでも家に帰りたい。だが、車内でずっと待たされる。高橋さんのときは、1番先に家に帰れたのだ）。

これまで、指導員は（見通しを持たせたい）と願って、ホワイトボードに、帰りの車種まで書き込んできた。だが、健作にすれば、見るたびに嫌なことを思い起こさせる。だから消す—。

「見通しとは楽しみのこと」。

今、事業所では、クッキーづくりや調理に取り組んでいる。

実践記録4つのステップ

実践の記録には、いくつかのステップがあります。

それを私は「実践記録4つの課題」、とっています。

①実践の方向性

「記録を問うことは実践を問うこと」。とりわけ、子ども理解が大事。熱があるとき、インフルエンザとみるか、風邪と見るか、それによって処方箋が違ってきます。「問題行動」の中に「屈折した形での”その子のねがいを読み解く—それが勘所」。

②事実の切り取り

ADHDの直行は、1番になれないと、名札を引きちぎって教室を飛び出す。あるとき、製作で飛行機の尾翼がうまくつかずに苦戦をしていた。しばらくして、ポツリと言う。「まっ、いいか」。(折り合う力がつき始めた!)—この事実を「子ども発見」として、すかさず、心にとどめ・メモするのです。その子へのねがいが高ければ高いほど、キラッと光る小さな変化を見つけることができます。

(いいな)と思う子どもの姿、やはり、書きとどめ、誰かに伝えたいものです。

③事実の意味づけ

直行の、何気ないつぶやき。小さな事実であっても、その子のこれまでの歩みに照らしてみれば、かけがえのない値打ち。意味づけによって、事実の見え方が違ってきます。「小さな事実の中に大きな人間的な価値がある」。

④記述

何よりも、事実を(で)書く。

具体的な進め方

①1日目(7月9日) — 「実践を語る言葉を見つけよう」 担当：松島

「書く前には話すこと」が原則です。自分の実践を語り、キラッと光る実践の値打ちを見つけていく—そんな語り合いができたらと思います。それが記録につながっていきます。

②2日目(10月1日) 子ども・なかま理解と記録の書き方 担当：竹澤

午前は、子ども・なかまの内面理解と実践の進め方(私の実践から)

午後は、いくつかの実践記録を読み合い、どの記録が伝わるか、それはなぜかを、実習的に比較する

③3日目(11月19日) 午前 記録を綴り、より伝わるものに 担当：竹澤

皆さんから出された記録を読み合い、より自分の思いを表し、伝えるにはどう記述するといのか、添削例をもとにしながら検討する。

書くことで、子ども・なかま理解が深まり、実践を見つめる機会になります。そして、少し意識化することで、書き方が大きく変わります。

人間発達研究所

〒520-0052 大津市朝日が丘1-4-39 梅田ビル3階

Tel/Fax 077-524-9387

Email j-ih63su@j-ihd.com

URL <http://www.j-ihd.com/>
